

カーコンカーリース

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み8,000円(※)に含まれています。さらに、ご契約期間満了時には車がもらえます。 ※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

「私は、一日266円で

(※)

車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません



※9年カーリースの場合 ボーナス月加算あり

カーコンカーリースの **0120-29-5353** <受付時間>8:00~22:00
お申込みお問い合わせは 〒108-0075 東京都港区港南2-11-19大滝ビル

車社会と労働力

日本社会を底辺から支えている運送や物流関係のドライバーが減少し、採用に苦労している。昔から物流業界は、「3K(きつい、汚い、危険)」職場というイメージが付きまとうため、会社側も採用に工夫し、全力で労働力の確保に努めてきた。実は、この業界は車社会日本を支える上で、もっとも重要な役割を果たしている。物流が止まれば、我が国の経済は混乱し、その影響は企業業績だけでなく、消費者の生活にも及ぶ。加えて、我が国の流通の7割を占めるといわれている輸入物資。とりわけ食品、食料関係の流通が滞れば、庶民の命さえ脅かされる。

厚生労働省によると、道路の貨物運送業に従事する人の平均年齢は、昨年2023年で48・5歳。この10年で3・3歳上昇した。人気業種でもある情報サービス業の40・6歳や、同じく人の採用に苦労する宿泊業の43・3歳などと比べて、平均年齢の高さが際立っている。特に、運送業は、長時間の運転や、荷物の積み下ろしなど、体にかかる負担が大きい。一般的に、60歳前後が引退を考える一つの時期になるらしい。と考えると、若者の採用を積極的に増やすだけでなく、高齢社会におけるドライバーの就労環境の整備もこの市場を支える重要な課題である。

友人のタクシー会社の話だが、タクシー1台に約3名程度のドライバーが必要なのにもかかわらず、今は約1・5名しかいない。倉庫にはタクシーという在庫が眠っているという話でもある。

政府の労働政策で、運転手を含めた一カ月の労働時間が見直されたことによって、この運転手の減少問題は、今後とも大きな問題として、抱え続けていかなければならないであろう。一方で、運転に必要な運転免許の若者の取得率も減少の一途を辿っている。車社会の将来を眺める上で、電気自動車や自動運転など、ある意味華やかな話題もあるのだが、カーコンビニ倶楽部も次の時代の提唱者として、車と人間社会に対して、大きな提案をする時期に来ているのかもしれない。

車の役割が今後とも加速度的に大きくなり、見直されているということは、私たちに与えられた責任とその命題も大きくなったといえる。



林 成治 Seiji Hayashi
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
1981年4月:プロミス株式会社入社
2008年4月:同社執行役員就任
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
2008年10月:同社代表取締役就任
2009年8月:バブル債権回収株式会社 常務取締役就任
2010年4月:株式会社Doフィナンシャルサービス取締役就任
2011年1月:同社取締役退任
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任